

しらかば

北海道中国帰国者支援・交流センター

〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7

電話 011-252-3411 FAX011-252-3412

URL: <http://www.hokkaido-sien-center.jp>

E-mail: hokkaidocenter@dosityakyo.or.jp

2014年冬号 第23号

夢、生きがい感じて、安心の1年

北海道中国帰国者支援・交流センター所長 藤田裕行



2014年のはじめに、帰国者の皆さまのご健康とご多幸をお祈りします。センターは、今年も帰国者の皆さんが、夢を持ち、生きがいを感じて生き生きと生活ができるよう皆さんの声を聞き、ともに歩んでいきたいと思ひます。一世の皆さんの平均年齢が75歳といわれ高齢化の問題が大きな課題になっていて、厚生労働省も支援策の重点としています。私たちも皆さんが老後を安心して過ごせるよう支えていきたいと思ひます。

また、地域の方々に帰国者への理解を進めて、支援団体、ボランティア支援者の皆さんと協働して帰国者の皆さんが安心して暮らせる多文化共生の拠点づくりも進めていきます。今年も、ともに歩みましょう。

介護の職場見学会 慈啓会特別養護老人ホームを見学

将来の仕事のために

帰国者二世 ことばがわかるヘルパーさん候

一世帰国者の高齢化が進んで帰国者にとって介護の問題が大きくなっています。帰国者が安心して介護施設や介護の体制がほしいという声が聞かれます。その心配は、言葉の問題、文化の違いです。

そこで、二世三世のみなさんに福祉・介護の現場を理解してもらい将来の仕事として介護ヘルパーなど福祉の仕事を考えてもらおうと、12月12日、『介護の職場見学会』を行いました。

見学したのは慈啓会特別養護老人ホームで、参加したのは樺太帰国者二世4人です。日本の介護の現場を見るのははじめてという4人は、成り手が少ないという介護の仕事の現状や勤務体制、食事や

入浴の
介助な
どにつ



いてていねいでわかりやすい説明を受け施設を見学しました。

老人を隔離するロシアの養老院と違うと驚いていました。見学後には、ヘルパーになるには医療の専門知識を学ぶのかなど活発な質問があり、資格がひつようせつめいうかいごしごとりかいふか必要と説明を受け、介護の仕事に理解を深めました。

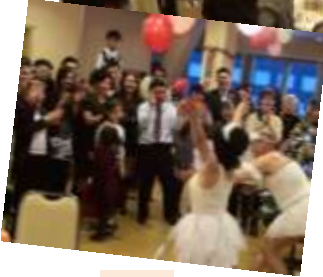
介護の職場の見学会は、引き続き中国帰国者二世に呼びかけて行う計画です。



からふと き こくしゃ
樺太帰国者
こうりゅう
交流
パーティ



ロシア式の集い 「ふるさとへ帰ったみたい」



「いっぱい踊っていっぱいしゃべって、楽しいよ！」笑顔いっぱい語る樺太帰国者の皆さん。今年は、帰国者の皆さんによるロシアと同じパーティをという企画で「ふるさとへ帰ったみたい」と言わせるほど、心開かれ思い切り交流パーティを楽しみました。

道内各地／サハリン／東京から集う

いっぱい踊ってしゃべって、楽しい

NPO日本サハリン協会と協力して、12月23日クリスマスに、札幌テレビ塔のホールで開催された今年の交流パーティ。参加したのは、帰国者の皆さん、ボランティア支援者の皆さん、日本サハリン協会の皆さん、子供から小中高生、大学生など120名。持ち寄りのピロシキ、ロシア風サラダの数々がテーブルに並び、手作りの会場の飾りも華やかで、会場は温かく親しみある雰囲気に包まれました。

稚内、旭川、函館から参加した人。遠くサハリン日本人会からの参加、さらに、東京から駆けつけたのは、元日本サハリ

ン同胞交流協会の小川峯一会長、日本サハリン協会の斉藤会長。帰国者の皆さんは大歓迎、協会の皆さん、大家族のように交流を深めました。

トナカイにひかれてサンタクロースが登場して会が始まり、クリスマスツリーが点灯すると一気に打ち解けて、ハーモニカ演奏や歌、そしてバレエ白鳥の湖や輪になってダンスと、皆さん笑顔、笑顔のにぎやかで楽しいパーティになりました。

心温まる交流に「ふだんは話す人もいない、寂しい。だからこの会は続けてほしい」という声が聞かれました。

いっせい き こくしゃ おんせんいっぼくけんしゅうりょこう
一世帰国者 温泉一泊研修旅行

こんな時間、必要 「心の奥から話し

皆さんが楽しみにしている年に1回の温泉一泊旅行は、今年は洞爺湖温泉で10月27日、28日に行われました。参加したのは、中国帰国者、樺太帰国者一世の皆さん55名、温泉を楽しみ、お互いの交流を深めました。

中国帰国者一世は残留孤児、苛酷な人生体験を共有するもの同士心通い合わせて深夜遅くまで語り合ったと言います。そして「心の奥の話ができてお互い教えられた」「こんな時間が必要なんだ」としみじみ語り、帰国前のご帰国後のこと人生を振り返り



互いに確かめているようでした。洞爺湖名物の花火大会を楽しみ、世界ジオパーク昭和新山の火山の驚異に驚き、一世の皆さん気持ちも伸びやかに交流旅行を楽しみました。

おしゃべり交流会

おしゃべり 楽しい異文化交流

「おしゃべり楽しいヨ」「樺太ことサ、いっぱい聞か
れたサ」と樺太方言で語る樺太帰国者一世Sさん、Tさ
ん。ボランティアの皆さんとおしゃべり交流会は、会
を重ねて自然なおしゃべりに広がっています。

日本語がなかなか通じない学習者も、耳を傾けてお
しゃべりを聞き、話します。そうすると、お互いになん
とか聞き取ることができて話題が広がっていきます。通

じたというよるこび
嬉しそうな顔。ボラ
ンティアさんも「勉
強になることがあ
る」「考え方の違い
がわかっておもしろ
い」と異文化交流
を楽しんでいます。



旭川おしゃべり交
流会
ハーモニカ演奏・音楽で日本を知る
流会

『継続こそ力』。地域に交流の拠点を作
りだそうと、旭川おしゃべり交流会は会
を重ねてきました。11月21日、おしゃべり交
流を楽しんだ後、ハーモニカ・歩みの会の
皆さんのハーモニカ演奏会が行われまし
た。ボランティアの皆さんには懐かしい日
本の童謡が中心。帰国者の皆さんにははじ
めて聴く曲が多く、歌を通して日本文化を
知る体験になりました。旭川おしゃべり交
流会



日本料理教室

おせち料理、おいしい笑顔

12月9日 お正月を前に日本のおせち
料理を作ろうと第3回料理教室が開かれ
ました。中国帰国者、樺太帰国者28名が参加
しておせち料理作りを体験しました。

皆さん、日本料理には興味しんしん、き
れいに盛り付けて試食。賑やかにおしゃべり
しながらひとつひとつの味をためて口に
合うもの合わないもの感想を言い合ってい
ました。

食べる日本文化体験に、勉強になった、楽
しかったと皆さん笑顔でした



NPO シーズネット 中国帰国者支援事業

NPO シーズネットが主催する今年3回目のもみ
じ台団地地域での交流活動。今回は、中国帰国
者文化作品展と帰国者二世Mさん、Sさんが講師
になって餃子作り講習会が行われました。
作品展には、中国画、絵画、書、手芸作品や
中国刺繍が展示されて帰国者文化が紹介され
ました。餃子講習会は団地の皆さんが参加して
中国の餃子作りを体験「手作りの皮のおいしさ
が違う」と、さっそく我が家のメニューにしま
すと笑顔を見せていました。

おいしいさ違う！

団地のみなさん

餃子づくり

